



特別
 ~ 12
 1077
 39





利
1077
3839



鈴虫

五十歳

薰三歳

夏入道宮借養持佛事

入道宮有三年宮給事并崔院在處方

秋入道宮之樂院夜殿作秋野致事同伽具事

十五夜月入道宮海月折其源氏君

系給事

松虫鈴虫不定事
源氏引琴給事

吾兄宮上侍君未系宮御方事

源氏戀故東門清治事

同夜冷泉院所消息於此事院則泰冷

泉院給事

有和奇作文具事

六條院於中宮所方出也浪事

中宮為六條院所息可候善事

鈴虫 卷右取奇并詞秘又詞

鈴虫のあり出るるもあつ

大あこの秋とけはととあつと

あつとあつとあつとあつと

私云詞よあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

源氏君あつとあつとあつと

皇女並秘

源氏二十歳の夏より秋まで事秘

皇女の並秘

皇女并の並秘（源氏五十歳秋まで事）

ク多ク少歳

夏より秋まで事秘

六條院池の草秘

入道れらあまれ

女とまゝあり秘

水らふりとも

水持佛也 年中階級一の席と

りも持佛ともいふあり

付くひをあらはれ君の水うらみと

水持佛とせしむるはとていふも秘 哀痛

書の出づる所

六條院とて源の憲宗

居てとらつてせぬ

前よりしらぬの持佛と唯今念彌堂

の具よりとらつてとらぬ

とらぬ

よりの佛前よりとらぬ

とらぬ

源よりとらぬの事とて案とて憲宗とて

花つとて念れありの事とて

花机後徳文紙月條也 寛和元年

五月十八日御記日經撰名 玉花足下

机加花文後度二文後地敷

めそめとらぬ

條つとて

今の世れよの子とらぬの如し唐の

織物

とらぬとらぬとらぬとらぬ

よゆれぬ丁れあさるしよあひるしよ

^{何レハ} 西

此根の西の惟とあげてうし海に
る。法苑の曼陀羅とよけらるる
法苑の儀

^{異同云} 夜の御根の根なり言わぬ根を
幸一此根をいふあるべしとて
御根とすらしよ言ひぬの惟と

これより

佛壇

付佛壇別は持佛をいふと云
あつしよあひるしよあひるしよ

しよあひるしよ

よありしよしよしよしよしよしよしよしよしよ

しよしよ

曼陀羅

曼荼羅 右義中七 漏茶羅

英令
ニクニ
付後アリ

とく〜〜〜の多

蓮花秘の多

〜〜〜の百ふのえく〜と

何 歩の香

昔と唐方秘と月

百ふれくのえ〜と〜〜〜のあり

え〜も蓮衣のなる〜

唐秘の方〜とあり〜と〜と〜

あり〜佛秘け〜のあり

阿弥陀 脇士菩薩何 和同

観經云 天量壽佛 住立空中觀世

音大勢至是二大士侍立左右

二大士秘脇侍也 和同

唐太宗大武皇帝為太祖元皇元貞皇

后遂梅檀等身像三軀

延喜式 盧舍并 脇侍菩薩白梅一合龍

あり〜

關伽具 梵語也

りきいさるいしるるるるるる

りは地師の言黄赤白丸草わりの

此うり花とんえんしり

是の花とゆりてあつるるるるる

今しるるるるるるるるるる

うえのあつと

是を日あふ秘り并

荷葉并子

草花よしとあつるるるるるるるる

あつ

みらとあつるるるるるる

蛭秘子秘なるるるるるるるるるるる

のるるるるるるるるるるるるるる

蛭并のあつるるるるるる

佛同前みれいし類并るるるるるる

蜜并しとあつて抹香并るるるるるる

あつるるるるるるるるるる

るるるるるるるるるる

并葉の音と池の草とらりりわひる

古道乃存すのいあよ六部うせ給て

六部例を女とていひのわをわ

私人してあせのいあ

ううれ出らるる

天曆九年正月官村上天皇為母后被

信養宸筆下法苑經有八卷

女秘之文れ出持經あり

私源の自筆下うういあ

あまごころのせれきらえんて

源秘と女之文と今し生れらるりて

くあうるいりて

こそとわき

河海庵行乞の源中あひのいあ

とていひる

あ秘ういひる

けうきいあひのいあ

又塙金

とてしるすのふりてしるす

けしむるのふりてしるす
とてしるす

これのふりてしるす

況んは机 此のふりてしるす

とてしるす 頂戴

一説言同様其也 経れ机と佛の頂上

よ安んずる

付巻始りてしるす

目ありてしるす

とてしるす 佛れありてしるす

御帳乃らうらよ 経れと安置せし経

とてしるす

御帳其也よ 佛とありてしるす

机とてしるす 何れ其の経と

とてしるす

とてしるす 佛の所とてしるす

帳其也 佛の所と安置せし

ようし香の

^抄 深の自筆の神の別。うらぐせ 其の

のの守師のうらぐせ

^弄 沈の花足の花。うらぐせと来と今も

廣す二寸厚。二寸うらぐせ。是と来

うらぐせ。其の西と丸。穴とあ。うらぐせ

うらぐせ。これよ。うらぐせ。又花のうらぐせ

うらぐせ。則佛壇のうらぐせ。うらぐせ

是と沈。うらぐせ。うらぐせ。うらぐせ。うらぐせ

摩れ酒のうらぐせ

業のうらぐせ

法書とあ。うらぐせ。道場

かりし。うらぐせ。海師。

うらぐせ。うらぐせ

^弄 又此のうらぐせ。うらぐせ。うらぐせ。うらぐせ

^行 行香事。見貫。愚徒

開白朝座。夕座。中間。結願。朝朝暮暮。兩

座。沈被。行。之。諸。都。人。敷。或。八。或。四。人。

院のちのいよるを

保(法)舎れわのいよるを

わいのいよる

女とれに好のあはれ

よされいよる

まはたのいよる

まはたのいよる

まはたのいよる

まはたのいよる

うのいよる
はあはれ
あはれ
まはた

うのいよる

講院のいよる

あはれ

あはれのいよる

あはれのいよる

あはれのいよる

あはれのいよる

あはれのいよる

あはれのいよる

あつち

うし後の世よ

是を今世よそい女とれはよとく
てはとわらふん

かの花乃中れも

一々池中一草一書満草と物是往世各
留半坐系草葉待我闇浮同行人五言

くらとまよと月一うとわい歌よ

乃別あきよのふ

女書備一々池中一とくり今

別あきよのふ

乃り

か

香深扇

良のあき

乃らうとらとれ扇とら

君うろろむまゝに

^秘女之宮に事せし源乃るに世に

わたりては

^昇私云くは

ありては

りしと

^関源の佛道

一蓮少

く

ら

源の初

れあり

源乃る

ら

捧物

七

七僧法服

誦師
散花

讀師
宣卷

咒願

之禮具

秘同載之

お世はるまゝいふのてし

^秘まら〜の事〜也

内よりのみよ〜

^秘水瀧院の使也 内裏〜も院〜も
〜〜〜也

院〜ま〜けさ世はるま

^秘六條院也 井

お〜とあり〜か

^秘首界台あり

ゆふの寺の〜〜〜

^秘茶花露雨〜五母初寒河路立重畳

烟南之新処腕寺僧帯 用賦

^秘名僧とも水布施持也〜〜〜

〜の〜の〜あり〜

僧とも〜〜〜

〜花と〜〜あり〜

^秘水布施のあり〜〜〜

お〜の〜あり〜

秘
院のいふに
秘
院のみ
のまこと
交

院のいふに
秘
院のみ
のまこと
交

秘
朱
のまこと
交

朱
のまこと
交

わつしんをぬきおのりしるのついでに
うすいおのりしるのついでに
かきよのりしる

のまろくもくおのりしる

^秘と桑の文也

^并と桑の事也と文はうりしるのついでに

と桑の文のころころあつた

冷諸國興田部長倉 日記

院の文をうりしる

朱菴れ女と文のついでに

うりしるのついでに

^并源氏をうりしる

秋のついでに

^并女と文のついでに

ついでに

^秘尾をうりしる

ついでに

後をうりしる

原水
平
東也

みよせ給ふ

十よふこころれりこそあきらまじしとて

并 尾ののののののののののの

名所よのののののののののの

并 舟のののののののののの

夕ぐれよのののののののののの

原の女とれりこそあきらまじし

れあつひのののののののののの

原の女とれりこそあきらまじし

のののののののののの

原の女とれりこそあきらまじし

秘 女とれりこそ

并 女とれりこそ

原の女とれりこそあきらまじし

原の女とれりこそあきらまじし

原の女とれりこそあきらまじし

原の女とれりこそあきらまじし

原の女とれりこそあきらまじし

思ひ出さるるを 縁中を以て せんば
けりしは ちと 指針の せんば
て せんば せんば せんば せんば
せんば せんば せんば せんば
せんば せんば せんば せんば
せんば せんば せんば せんば
せんば せんば せんば せんば
せんば せんば せんば せんば
せんば せんば せんば せんば

十五夜乃月れ せんば せんば せんば

秘 せんば せんば せんば せんば
せんば せんば せんば せんば

耳 八月十五夜 せんば せんば せんば

せんば せんば せんば せんば

回 せんば せんば せんば せんば
せんば せんば せんば せんば

せんば せんば せんば せんば
せんば せんば せんば せんば

せんば せんば せんば せんば
せんば せんば せんば せんば

あしき心持の御座り候

阿しきの大と

阿しき大呪

尼君の御座り候

秋のしほの御座り候

秘 源の徳

申され候御座り候

秘 秋好中一の御座り候

秘 秋好中一の御座り候

まじり候御座り候

あしき心持

秘 秋好中一の御座り候

あしき心持の御座り候

あしき心持の御座り候

秘 秋好中一の御座り候

あしき心持の御座り候

秘 秋好中一の御座り候

あしき心持

松の葉の影をまきしる
あまのこゝろをなぐさむ
まはるる

^女あまのこゝろをなぐさむ
あまのこゝろをなぐさむ
^秘あまのこゝろをなぐさむ

あまのこゝろ

^菟あまのこゝろをなぐさむ
あまのこゝろをなぐさむ
あまのこゝろをなぐさむ

^因あまのこゝろをなぐさむ
あまのこゝろをなぐさむ
あまのこゝろをなぐさむ

あまのこゝろをなぐさむ
^秘あまのこゝろをなぐさむ
あまのこゝろをなぐさむ
あまのこゝろをなぐさむ

^延河のそとまれば

しらの部うし

^秘女とま

これい

^花冷虫は女とま

まの

の

^何まの

^字とま

う

う

う

ま

^秘ま

あ

あ

よきしよしと

^秘 深の初井

あつねのうらみかたはなごころのしるしを
とよ

深の湯をよも出逢ふもあつね

ころのあまのうらみかたはなごころのしるしを

うらのあまのうらみかたはなごころのしるしを

延花御時八月十五夜に徹夜の萩

ささくしるしをくわのうらみかたはなごころのしるしを

裏して物げの時の方拾遺よあり

友原経良

あつねのうらみかたはなごころのしるしを

昔のうらみかたはなごころのしるしを

てふしるしを

あつねのうらみかたはなごころのしるしを

あつねのうらみかたはなごころのしるしを

と記すことよしのめりしとてふ

秘同用 此引号係り約

ことよしのめりしとてふの多きは

之五夜中新月色二千里外故人心

未天 秘同

故權大綱云

秘 柏木也

私之ありしとてふの多きは

之とてふとてふとてふとてふ

私前の待とてふを

世のありしとてふ二千里外

とて柏木也事とてふ出

故人心とてふは号物とてふ

大なることよしのめりしとてふ

とてふとてふとてふとてふ

とてふとてふとてふとてふ

とてふとてふ

とてふとてふ

秘 ふうり〜きい 丹筆

此の録も種々しはり

柏木管長後の生老と云々しはり

見とれうらふもん〜しめりて

女と交柏木れ事〜と云々しはり

秘 源のふ〜女と交のふと云々しはり

のふせ

池のふ〜あり〜出けり

秘 ふうりの柏木をあり〜あり〜けりて

御前のふをふ〜あり〜あり〜あり

秘 是〜ありを冷泉院〜あり〜あり

あり〜あり〜あり〜あり〜あり

大寺を印木乃〜あり〜あり〜あり

のふ

秘 比人〜冷泉院〜あり

き〜あり〜あり〜あり

秘 是〜あり〜あり〜あり〜あり

秘 是〜あり〜あり〜あり〜あり

え

冷

皇のうらみ

とれぬあさひの君

秘

院とせしむる

月をさねぬあり

昇

月をさねぬあり

あ

あ

う

秘

あ

う

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

こみれんこまのいふ

片断丸原のあまのいふ

音の秋のうらたみ

念行舟の舟の舟の舟

音のわらわのうらたみ

水舟の舟の舟

舟舟の舟の舟の舟

舟舟の舟の舟の舟

舟舟の舟の舟の舟

あまのいふ

水秘の舟の舟

舟舟の舟の舟の舟

舟舟の舟の舟の舟

舟舟の舟の舟の舟

舟舟の舟の舟の舟

舟舟の舟の舟の舟

舟舟の舟の舟の舟

舟舟の舟の舟の舟

冷虫^必此夏^必くしあつらん^必とらうれん^必
俄^必の^必やう^必らう^必の^必あ^必い^必

院乃御車^必よらん^必そ^必ま^必ら^必う^必
所^必と^必昔^必の^必交^必水^必同^必車^必也^必

大將^必尼^必衛^必門^必結^必友^必宰相^必 友^必系^必圖^必何^必

尼^必束^必の^必結^必友^必宰相^必大臣^必の^必あ^必り^必 系^必圖^必の^必あ^必り^必
の^必結^必友^必宰相^必

私^必系^必圖^必の^必あ^必り^必尼^必束^必の^必結^必友^必宰相^必の^必あ^必り^必 友^必系^必圖^必の^必あ^必り^必
友^必系^必圖^必の^必あ^必り^必又^必に^必に^必ら^必の^必あ^必り^必の^必あ^必り^必

あ^必ら^必う^必ひ^必て^必冷^必泉^必院^必の^必あ^必り^必し^必も^必
け^必ん^必や^必う^必に^必但^必多^必く^必なる^必れ^必事^必ん^必れ^必た^必
馬^必場^必と^必は^必に^必冷^必虫^必と^必系^必圖^必の^必あ^必り^必に^必
の^必あ^必り^必藤^必宰相^必と^必は^必に^必に^必ら^必の^必あ^必り^必

下^必の^必あ^必り^必し^必ら^必う^必

衣^必下^必着^必下^必製^必随^必使^必不^必言^必事^必
私^必是^必の^必あ^必り^必と^必昔^必の^必あ^必り^必に^必に^必ら^必の^必あ^必り^必
の^必あ^必り^必

かきつばたのうらみ

^昇車はうらむを

深衣とくよき建ぬ屋は

くさくさ

^秘深の積り

多し

深のこよひ

好む

^秘冷泉院の水

^昇冷泉院

^中夕暮

心

詩

^秘心

心

心

^関前

心

中文此水方一

^秘秋好より一

いふはうとるるは出たるあ。

^秘深の詞

まうもつぬ方れあつては

^秘院号よりあつてつてはあつては

早子の詞

^秘深氏早子の詞

あつてはあつてはあつては

深よりとも年齢れとつてはあ

出あつてはあつてはあつては

あつてはあつてはあつては

あつてはあつてはあつては

あつてはあつてはあつては

隠道の事也

あつてはあつてはあつては

^秘中よりあつてはあつては

^秘我らよりあつてはあつては

右の事可なりと成るべし

六條の事可なり

先の中交れ此の事可なり

六條の事可なり

さうして此の事可なり

の事可なり

此の事可なり

此の事可なり

此の事可なり

此の事可なり

此の事可なり

此の事可なり

此の事可なり

此の事可なり

此の事可なり

此の事可なり

此の事可なり

此の事可なり

目録連羅耶那 唐玄宗敕氏

孟蘭盆經 云落餓鬼中

目録救母生天經 在大焦熱地獄中

二徑參若 スルヤ

但救母經 大藏目錄外也

^苑目録のしめて六通と云ふると佛の

らふことばなりと云ふ又佛の親をすは

んともありと云ふの母は餓鬼道に

ありと云ふと救母をす 事孟蘭盆

經のしりて

^并羅漢のしりて 事 と云ふと授

記 ありと云ふ事あり

^秘目録救母經の偽作の經也 孟蘭盆

經 のしりてありと云ふ佛の親に

する也

たれし ありと云ふ也 ありと云ふ

此を つ又字信

ありと云ふなり

〜原の我花とある5m50cm
5.28cm〜2.5m51cm3.0cm
5m50cm

秘 花 草 子 花 秘

私新好と原との原と也。

秘 原 花 子 花 秘
原花の葉のていどは5m50cm
原花の葉のていどは5m50cm

善文と女脚の原と也

秘 原 花 子 花 秘
原花の葉のていどは5m50cm
原花の葉のていどは5m50cm

秘 原 花 子 花 秘
原花の葉のていどは5m50cm
原花の葉のていどは5m50cm

秘 原 花 子 花 秘
原花の葉のていどは5m50cm
原花の葉のていどは5m50cm

原花の葉のていどは5m50cm

冷泉流は清佳よ
なまのうたのうた
なまのうたのうた
なまのうたのうた

中交のうた

船好

なまのうたのうた

^秘船好中交のうた

なまのうたのうた

秋好の清佳よ

なまのうたのうた
なまのうたのうた
なまのうたのうた
なまのうたのうた
なまのうたのうた





